

# Aichi あいちの学童保育

県連協ニュースNo. 5号

2019年12月3日発行

愛知学童保育連絡協議会

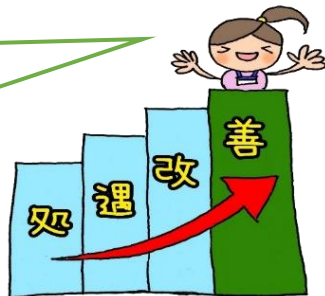
TEL:052-872-1972 FAX:052-308-3324

Email:aichigakudou@gakudou.biz

http://gakudou.me/aichikenrenkyou/

## 処遇改善事業の活用を働きかけましょう

指導員さんの給料を上げるために利用できる補助金があります。



- ①「放課後児童支援員等処遇改善事業補助」
- ②「放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業補助」

①②について、これまでも県連協では活用を呼びかけてきました。

県の子育て支援課から、今年度どの市町村がこれらを実施しているかについて情報提供を受けることができました。

【①を実施している市町】名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、春日井市、豊川市、津島市、犬山市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、豊明市、長久手市、美浜町（17市町）

【②を実施している市】名古屋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市（8市）

県内には54の市町村がありますが現状は上記の通りです。運営や雇用の形態によって実施が難しいところもあるようですが、市町村が所用額の1/3を負担しなければならないのも、実施を難しくしている理由と考えられます。

事業実施に伴う事務手続きがより簡便になるよう、また市町村の負担が軽くなるよう県や国に要望していく一方で、2020年度の実施に向けた予算計上を、この時期、市に求めています。

## 厚生労働省による学童保育施策の学習会

日時：2020年1月19日（日）14時～16時45分

会場：日本福祉大学東海キャンパス

名鉄太田川駅から徒歩5分

（駐車場はありません）

定員：先着100名（申し込み順）

参加申し込みが始まっています！



2020年4月から「従うべき基準」が「参酌すべき基準」にかわります。「条例本文の変更や経過措置を付則に加える等を行った場合、補助金はどうなるのか？」「処遇改善事業はこれからも続くのか？」などなど、学童保育所を運営するうえで不安なことがいろいろあります。併せて今回は中村強士さん（日本福祉大学）による学童保育施策の学習会も企画しています。今後の学童保育施策への理解を深めるとともに運営に生かしていきましょう。行政の担当者や議員にも参加を呼びかけて、学童保育の施策拡充につなげる機会としましょう。

\*申込用紙は、愛知学童保育連絡協議会HPよりダウンロードが可能です。\*

## 第54回 全国学童保育研究集会 in 京都を終えて



全国研プロジェクトチーム事務局

佐藤恵美子さんより

全国研の報告をいただきました。

全体会



毎回見たくなるオープニングの歓迎行事！今年も子どもたちの頑張りにとっても感動しました！

初めに、京都と言えば「丸竹夷(まるたけえびす)。「♪まるたけえびすにおしおいげ♪」と京都の通り名のわらべ歌に合わせて、まりつきを披露してくれました。そして、けん玉に一輪車。一輪車は、一本橋やシーソーをバランスよく渡る姿は圧巻でした。サーカスでよく見る高一輪車。小学生の子どもたちが難なく乗っている姿は驚きでした。

池添 素(NPO 法人福祉広場)先生の「働きながらの子育て—子どもが自分で育つ力を育む—」の記念講演は、どんどん話に引き込まれていきました。「子育ては『未来の大人を育てること』。子どもは育てなくても育つもの。大人はそれを邪魔しないことが大切。そのためには子どものことをよ〜く知ろう!」という言葉にハッとさせられながら、「学校や学童保育では、子どもはいろいろ手伝ったり自分のことをしっかりできるのに、家では何で何もしないのだろう?動かないのだろう?と思うかもしれないけど、それは携帯やゲーム機と同じ。充電がなくなれば動かなくなる。子どもたちは 睡眠で充電した力を学校で、学童保育で使うから、家に帰る頃には充電が 0 になってるから動かないんです。それは大人も一緒ですよね?」の話には「うんうん」と何度も頷きながら聞きいっていました。

「子育てに正解はない」「手抜きでも大丈夫!」「子育てはいつからでもやり直せる。」と、池添先生の言葉に子育てをする保護者として、子どもたちと一緒に学童保育で生活する者として、たくさんの力と元気をいただきました。

交流会



夜の『福島・あいち交流会』は、京都駅、京都タワーのすぐ横のビルにある『きょうと畑』というしゃぶしゃぶ屋さんで行いました。40 人以上のたくさんの参加があり、飛び入り参加もあり、予約した場所は座る場所がなくなるくらいになりました。福島・愛知のいろいろな地域の方と、片手にビール、片手にしゃぶしゃぶを手にしなが、学童保育に関係するいろいろな話をして交流することができました。

2日目 分科会

2日目は龍谷大学深草キャンパスをお借りして分科会を行いました。丸一日の分科会なので、いつも1つの講座を深〜く学ぶことができます。今回私は第2分科会『子ども理解と学童保育の生活づくり』の中の1『子どもを理解する視点と働きかけ・指導』の講義に参加しました。いわきの指導員さんの実践報告をもとに意見を申し合いました。子どもを理解する時に子どもの気持ち、その時の状態、背景などいろいろなことを考えること、いろいろな可能性があること。その時の行動・発言だけが全てではなく、その行動・発言に至るまでの過程、背景があり、過程・背景が関係していることを学びました。

実践報告をされた指導員さんはまだ経験が少なく、対応した子どもに対して「どうしていいのかわからない」と報告の最後をめていました。報告を聞きながら「20

年前の自分と同じだなあ。」と、昔の自分を思い出しました。そこから20年経った今、その時からできるようになったところ、変わったところ、そしてまだできていないなあと思うところ、自分の保育を振り返り、発見することができました。

今回の全国研の参加者は、全体では 3,692 名の指導員・父母・学童の関係者が京都に集まりました。そして、愛知からは 236 名の参加があり、全国で **3** 番目に参加が多かったようです。

今回もたくさんの方と交流ができ、たくさんの学びができました。来年は山形です。愛知からは少し遠いですが、皆さん、また来年も参加しましょう!



第55回全国学童保育研究集会は、山形県で2020年10月10日・11日に開催が決定しています。  
 たくさんの方に参加していただくためにも、来年度にむけて、早めに研修費の予算化をしましょう♪

「日本の学童ほいく」オススメ記事♪



2019年10月号 P60

連載コーナーの「出会い集い父母会」からのご紹介です。10月号では、神奈川県保護者からの投稿でした。初めての保護者会にとまどう様子から、出席率を上げるための方策まで書かれており、いろいろと参考になりました。特に印象に残ったのは、**参加率が毎回90%を超えていること**、そして、「**補足説明をていねいに行うこと**」で、新しい人に疎外感を与えないようにする、という具体的な心遣いについてのお話です。2年目以降の人には当たり前でも、1年目の保護者にはわからないことばかりなので、ゆっくりと補足することが大切だな、と改めて気づかされました。

瑞穂区保護者